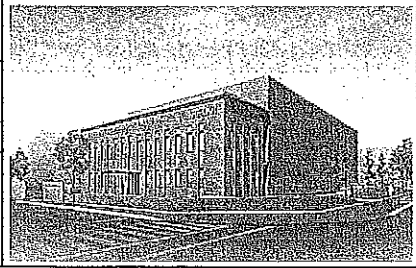


CASBEE® 新築[簡易版] | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 概要	
建物名称	片岡物産宇治工場	階数	地上2F
建設地	京都府宇治市大久保町成手1-27	構造	SRC造
用途地域	工業地域、法第22の指定地域	平均居住人員	120人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2010年12月 予定	評価の実施日	2010年2月17日
敷地面積	7,929 m ²	作成者	
建築面積	3,138 m ²	確認日	2008年7月10日
延床面積	6,035 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE=1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂ (棒状チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.6

3. 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>当計画敷地は、事業用地として開発された工業団地の主要道路の角地にあり、良好な環境・景観を形成する上で重要な位置を占めている。設計に当たっては、この地域の地区計画を十分理解した上で、道路沿いの緩衝帯を緑地として環境の創出に配慮した。また、工場という機能・建物でありながらも、道路に面する壁面はせき質タイルを使用した陰影の深いファサードと、落ち着きのある色彩を使うことで、緑地と一体になった街並みや景観を形成している。</p>	
<p>Q1 室内環境 食品製品製造工場という特殊機能をもつ用途の点から、工場部分においては埃がたまりにくい納まり、化学汚染物質を含まない建材を使用している。また、事務部分は東南西3面に採光窓を設置し、屋光を最大限採り入れた計画とする。</p>	<p>Q2 サービス性能 従業員の向上意欲を高める工場として、南東2面に面した明るい食堂、談話コーナー、喫煙室を設置している。また、工場としての耐用年数を確保す目的として、ゆとりある設備スペースの確保、更新必要間隔の長い部品・材料を採用する。</p>
<p>LR1 エネルギー 高効率型照明器具の採用により、省エネルギーに配慮した計画としている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 水資源保護節水対策として、節水コマに加えて節水型便器等の省水型機器を採用している。また、設計段階におけるグリーン調達実施9品目、有害物質を含まない材料として、接着剤・シーリング材等9品目を採用を選定している。</p>
	<p>Q3 室外環境(敷地内) 宇治市大久保地区地区計画を遵守した、良好な環境・景観の形成を図るため、前面道路歩道沿いに緑地面積率25%以上の植栽を整備し、環境保全・周辺のまちなみ景観の調和を図るとともに、周辺住民にも配慮した計画とする。</p>
	<p>LR3 敷地外環境 地球温暖化の配慮として、敷地内には緑化ブロックを用いた従業員用駐車場と駐輪場を設置し、運搬トラック専用としてトラックヤードを設けることで、周辺道路の渋滞をに対して配慮している。</p>

■ CASBEE Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される